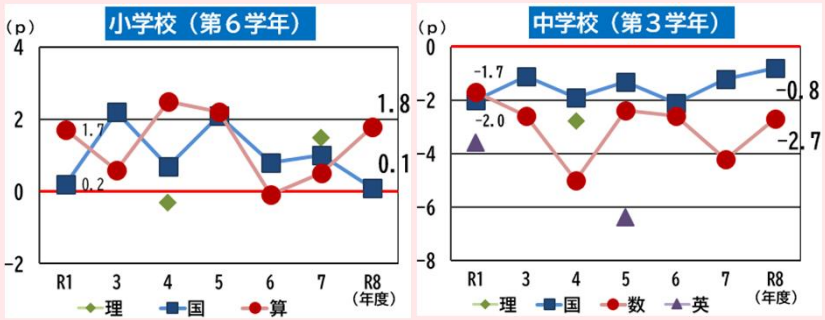
１．多様な子どもたちの状況に応じた学力の定着・向上

資料２－１

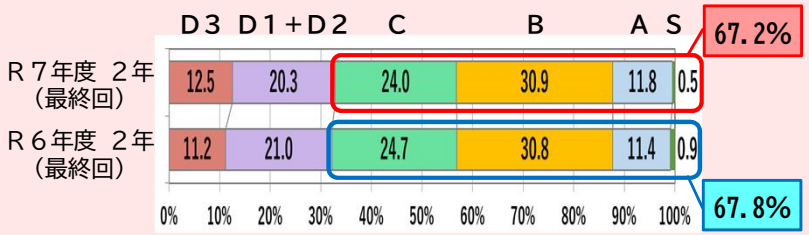
現状・課題

○学力の状況

小中：【全国学力・学習状況調査（教科調査）】



高等：【学力定着把握検査(対象：全日制・多部制昼間部の全県立高等学校の生徒)】



主な取組実績

○ **対話型AIの導入（中学校）**
- Ｒ７～：23校

○ **「エンカレッジティーチャー」の配置**
- Ｒ８～：９校（県立高校に26名配置）

○ **中高連携研究協議会**
- Ｒ８：学力に課題のある数学において中高の教員が合同で研修会を実施

○中学校の対話型AIを活用した学習支援実証研究校（Ｒ７年度～）の生徒は、Ｒ７の県の学力調査において学習成績（中１：県平均比＋1.1pt、中２：県平均比＋2.2pt）や学習意欲が向上

○基礎学力の定着に課題がある生徒の学びを支える「エンカレッジティーチャー」では、生徒が自主的に学習に向き合おうとする意欲や態度に変化が見られるなど、一定の成果

○中高連携研究協議会では、学校種の違いを踏まえた数学の指導事項や指導方法等を協議し、系統性を意識した指導の接続を強化

○デジタル技術も活用した自律的な学びの実現と、全ての子どもたちの学力保障の両面からアプローチが必要

ご意見・声

○単なる数値目標としての学力向上ではなく、**授業そのものが「学ぶ楽しさ」を味わえる**ものであるべき（教育振興基本計画推進会議委員）

○**学力向上とキャリア教育が連動するようなカリキュラム**が重要（教育振興基本計画推進会議委員）

○**対話を通じて考えを深めさせる形でのＡＩ活用は学びの効果につながること**を期待する（教育委員）



強化の方向性

生成AIなど先端技術を活用した自律的な学びを確保する環境を構築
- 中学段階においては、生成ＡＩを「使ってみる」フェーズから「ツールとして活用する」フェーズに移行
  さらに、小学校段階においても対話型ＡＩを導入するとともに探究的な授業づくりに活用することを検討
- 高校では、自律的な授業外学習を支えるデジタル教材の導入や、生成ＡＩの効果的な活用も支えるＩＣＴ支援員を配置

学びの継続性や積み重ねをより一層重視し、児童生徒のつまずきや苦手さを解消する教員の指導力を向上
- 小学校から高校まで一貫した系統的な指導を図るため、高校教員が中学校の教員を務める人事交流の実施に向けて論点や課題を整理するとともに、教育事務所における高校段階の指導主事の配置を検討

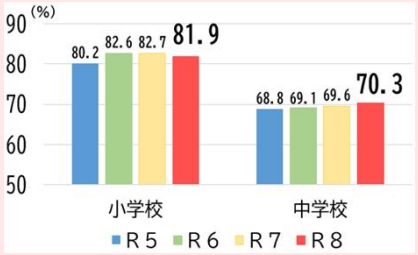
2．地域への理解と愛着を育むキャリア教育

現状・課題

○キャリアに関する意識調査

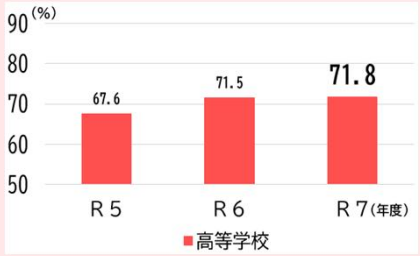
将来、就きたい仕事や夢があるとする小中学生の割合

【全国学力・学習状況調査（質問調査）】



地域や社会のためにすべきことを考えたことがある高校生の割合

【県オリジナルアンケート】



主な取組実績

○ **県内国公立大学への見学ツアー**
- Ｒ８参加者：中学生89名　高校生169名

○ **リアル版「みらいスイッチ」体験ツアー参加者**
- Ｒ７参加者（東部：45名、中部：39名、西部：37名）
- Ｒ８参加者（東部：83名、中部：33名、西部：47名）

○ **新しい学校のリーダー研修**
- Ｒ８：35校（公立：32校、私立：３校）

○ **地域とともに育む高知愛プロジェクト実施校**
- 保護者が参加して、地域で活躍している人材と語り合う研修会を実施（今年度６中学校区で実施（予定を含む））

○小・中学生や保護者が県内企業等を知るための取り組みは、キャリア形成を考えるきっかけとして参加者から高い評価

○見学だけにとどまらない機会創出のニーズがあることや、各イベントが体系的・系統的な経験の蓄積に繋がりにくいことが課題

○地域とともに育む高知愛プロジェクト実施校において、保護者等の事前アンケート結果からは「地域の仕事を知らない」との回答が半数以上

※子どもたちの進路選択、キャリア形成には保護者や教員が与える影響が大きいとされている

ご意見・声

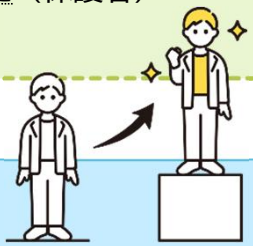
○**進路に向けてじっくり考え、体験できる時間が充実**することは、私たちの未来を大きく変えるきっかけになる（高校生）

○**自分たちの力で企画、実現する経験は、夢の実現**のきっかけになる（高校生）

○**高知県にも素晴らしい、頑張っている企業があることを子どもたちに伝えて**いきたいし、**企業訪問を積極的に行いたい**（教員）

○**地域の産業について、日頃あまり知る機会がない**と感じていた（保護者）

○大学生から実際に話を聞いたり、施設を見学したりして、より**具体的に進路を考えることができた**（保護者）



強化の方向性

これまでの取組をさらに充実させるとともに、単発的な催しに終わらせず、系統的に積み重ねていく仕組みを構築
- 県内国公立大学との連携を深め、より「体験的な」機会を創出
- 全国に先駆けた県全体でのキャリアパスポートのデジタル化を目指し、指定したモデル地域で効果や課題を実証的に研究
- 私立学校においても県内企業の講演や県内大学見学等への補助を強化。高知市、県関係部局と連携し、生徒の探究学習を継続的に支援

保護者や教員へのアプローチについて、効果向上に向けた高度化や対象の広域を推進
- 社会教育関係団体との協働実施や、中山間地域の高校魅力化を図る地域コンソーシアムとの連携などを検討

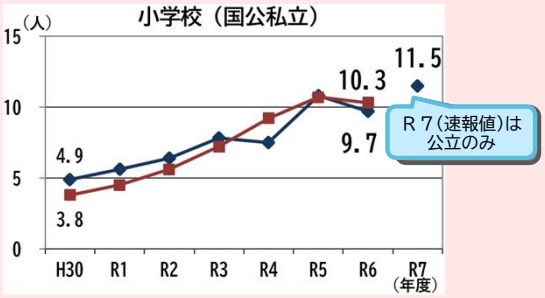
子どもたちが主体的に県や地域課題等に向き合い、解決していく取組への支援を充実
- 高校生による郷土に貢献する様々な方策の実践を後押し（地域課題解決チャレンジ支援事業）
- キャリアコンサルタントの活用

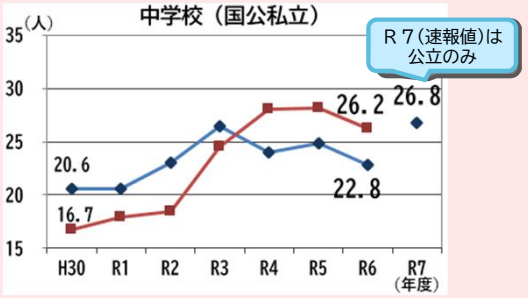
3．重層的な支援体制の整備・強化による不登校対策の推進

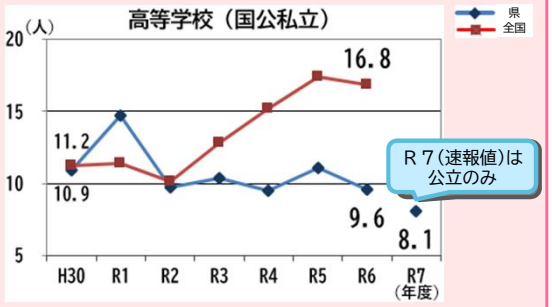
現状・課題

○1,000人当たりの新規不登校児童生徒数の全国平均との差

文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」より
（Ｒ７速報値は「高知県生徒指導上の諸課題・児童虐待に関する調査」より）







主な取組実績

○ 校内サポートルームの設置
・Ｒ７：68校 ➡ Ｒ８：84校

○ 広域支援体制の整備
・エリア配置型スクールカウンセラー：３名

○ 学びの多様化学校への支援（高知市、いの町）
・教員加配：６名
・まるごとサポーター※1：２名

※1 心理や福祉の資格をもつ専門人材

○Ｒ７速報値においては、特に小学４年から中学２年で新規不登校児童生徒数の増加が顕著

○小学４年頃からは、自我をいっそう意識し始め、他者との違いを意識する時期、中学１年は環境の変化に適応しようとして無理が出やすく、中学２年は友人関係や将来への不安に悩みを抱える時期であり、こうした発達段階に応じたアプローチが必要

○学びの多様化学校では、県による支援もあり、在籍児童生徒の約７割が継続登校につながっている

ご意見・声

○家庭が抱える困難は多様。**他の職種と連携・共有できるような体制が必要**。（教育振興基本計画推進会議委員）

○**校内サポートルーム**を見学したが、設置している学校では、**不登校の抑制が見られており、とても効果的**だと思う。ぜひ拡充していただきたい（教育委員）

○多様化学校に県が派遣している**「まるごとサポーター」は非常に効果的**
（高知市、いの町）



強化の方向性

児童生徒の安心感や意欲の醸成と、学校の組織的な取組を強化
・対話を通して合意形成を図る経験を重ね、一人ひとりが持ち味を発揮し、友人とのつながりを感じられる学級づくりを促進
・学校における組織的実践力の向上のため、児童生徒理解に基づく学級経営等を共通テーマに設定した各種研修会を実施

いじめ・不登校の早期発見・早期支援のための体制のさらなる強化
・エリア配置型ＳＣ※2の拡充およびエリア配置型ＳＳＷ※3の配置を検討
・早期発見・早期支援の取組を効果的に進めるうえでのＳＣ・ＳＳＷの活用に関する研究

多様な教育機会の確保できる体制を充実
・一定の規模を有する中学校への校内サポートルームの設置拡充
・メタバース活用や学びの多様化学校等による多様な教育機会を確保

※2 スクールカウンセラー ※3 スクールソーシャルワーカー

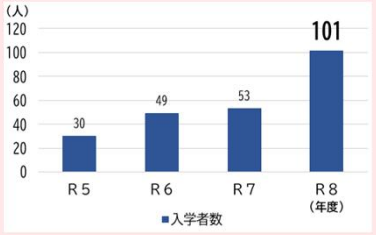
4．地域と連携した高等学校の魅力化・特色化の推進

現状・課題

●本県の県立高校の入学（進学）に関する状況について

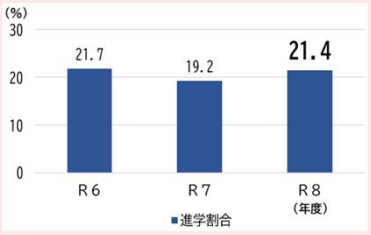
地域みらい留学等を活用した県外からの入学者数
Ｒ９目標：80人

【県出身中学校・義務教育学校別入学許可者数報告】



中山間地域等の小規模校（13校）に地元中学生が進学する割合
Ｒ９目標：32.3%

【県出身中学校・義務教育学校別入学許可者数報告】



主な取組実績

○ **地域みらい留学対面説明会参加者数**
・Ｒ７：450組　Ｒ８：676組

○ **県外からの体験入学等参加者数**
・Ｒ７：52組　Ｒ８：58組

○ **こうち留学フェア参加者**
・Ｒ７：47組　Ｒ８：101組

○ **国の改革先導拠点校（高校教育改革事業）**
・県立高校３校採択

○地域みらい留学・こうち留学フェアなどにより、「県外からの入学者数」のＲ９の目標を１年前倒しで達成（募集に取り組む県内高校数も増）

○地元中学生からの進学割合は伸び悩んでおり、地元からの進学率向上につなげる取組が必要

○中山間地域等の小規模校（13校）では、地元市町村と連携してアクションプランを実行（Ｒ10.４月入学者数等をもとに検証・評価）

○Ｒ８年度中に「県立高等学校振興再編計画」の改定と合わせ高等学校教育改革実行計画の策定が必要

ご意見・声

○**宣伝・広報のやり方を振り返り**、県外からの入学者数をさらに伸ばしてほしい（教育委員）

○高知県の学校への**興味が深まり、進学先の候補に入れたい**と思う（こうち留学フェア参加者）

○進学先に悩みを抱えていたけど、**今回の話などを聞いて、地元の高校もいいと思った**（こうち・みらいシンポジウム参加中学生（県内出身））

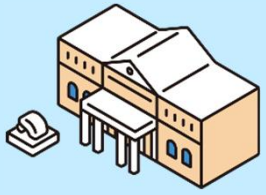
○これまで意外と**地元高校の取組を知らなかったことに気付いた**。今後の**進路指導に繋げていきたい**（こうち・みらいシンポジウム参加教員）

○よさこいは１度経験した方がいいと思う。**高知に来て凄かった、ド肝を抜かされたのがよさこい**（こうち留学サミット参加高校生（県外出身））

○高知の魅力は、**陽気で優しく、パワフルで活動的な県民性**。**人と人との距離の近さも魅力**だと思う（こうち留学サミット参加高校生（県外出身））

強化の方向性

高校魅力化に関するプロモーションを強化
・高知への愛着を醸成し、卒業後も継続的に関与する「関係人口」「交流人口」の創出を目的に、「よさこい」を柱とした取組を検討
・地元高校の魅力、中山間地域等の小規模校の魅力に改めて気付いてもらえるよう、県内向けプロモーションを充実



地域と連携した高等学校の魅力化・特色化の推進
・地域コンソーシアムで策定したアクションプランの実行に伴う高等学校や市町村への支援を拡充
・新たに地域との連携・協働を推進する魅力化担当教員への伴走支援を実施

「県立高等学校振興再編計画」の推進
・改革先導拠点（３類型・３拠点）の取組を促進し、高校教育改革のパイロットケースを創出

〔類型１〕アドバンスト・エッセンシャルワーカー等育成支援【高知農業高校】
〔類型２〕理数系人材育成支援【高知小津高校】
〔類型３〕多様なニーズに対応した教育機会の確保【高知東高校】

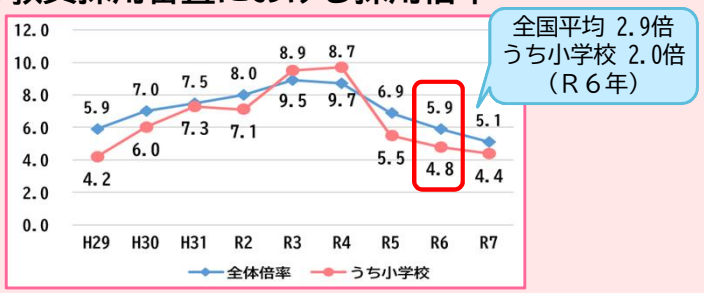
5．教職員の働きやすさ・働きがいの一体的向上

現状・課題

●教育職員の１か月時間外在校等時間

	R６（基準値）	R７（現状）	R11（目標値）
小	36ｈ	33ｈ	30ｈ（国の目標）
中	41ｈ	39ｈ	
高	24ｈ	27ｈ	
特支	18ｈ	18ｈ	

●教員採用審査における採用倍率



主な取組実績

○教員業務支援員の配置状況
・Ｒ８：137校・133人

○メンタルヘルス専門職相談員の配置
・Ｒ７　相談件数：182件

○部活動の地域展開等に向けた国の補助制度の活用
・Ｒ８　活用市町村：25市町村

○Ｒ７の「働き方改革推進モデル校」５校においては、Ｒ８年４～７月の時間外在校等時間が、Ｒ６の同期間比で14%削減（うち４校は24%を超える削減）

○教員業務支援員の配置により、過半数の学校で、時間外在校等時間を前年度比３%以上削減

○教頭等の在校等時間（月平均43h）は教諭（同30h）を上回り、過重な業務負担の軽減が喫緊の課題

○公立中学校の部活動は、Ｒ10までに、原則、教員が休日に指導を行わない体制へ移行。市町村や地域によって取組に濃淡

ご意見・声

○**教員業務支援員**などに書類整理をお願いしているが、**事務作業の時間が軽減され、本当に助かっている**（教頭）

○**働き方改革を進めていくことで、**子どもたちに**余裕を持って接する**ことができるようになった（働き方改革推進モデル校教員）

○実際に高知で働いている**大学の先輩やゼミの教授**から、**高知で働く魅力やサポート体制の手厚さを直接聞いたこと**が、受審の大きな後押しとなった（県外出身教員）

○地理や生活環境がわからないため、「車がないと生活や通勤が困難」など**生活に関する情報や具体的なアドバイス**があれば、**新生活への不安が和らぐ**（県外出身教員）

強化の方向性

教職員の時間外在校等時間の縮減に向けた取組の着実な推進
・民間事業者の知見を活用したモデル事業の成果や好事例を県内全域に横展開
・教員業務支援員の配置を継続するとともに、教頭等の負担軽減を図る体制を整備
・部活動の地域展開に向け、指導者の確保や地域クラブへの支援を充実させるとともに、取組を牽引するコーディネーターの配置を促進

教職員の人材確保に向けた取組のさらなる充実
・県外大学へのアプローチを強化するとともに、先輩教員の生の声を届ける機会を積極的に設定
・県外出身者の生活面での不安を払拭するため、採用前に本県を訪問し、生活環境や職場環境を実感できる機会を確保
・短時間勤務など柔軟な働き方を制度化し、退職後も学校現場で力を発揮できる環境を整備